

横浜市中区

なか国際交流ラウンジに通う 「外国につながる子どもたち」



公益財団法人 横浜市国際交流協会 (YOKE)

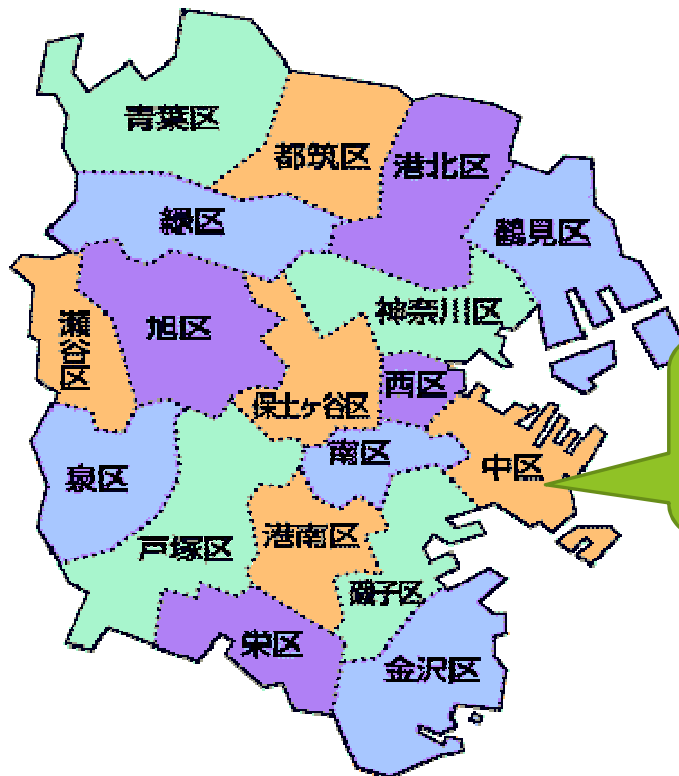
なか国際交流ラウンジ

チーフコーディネーター

中村 暁晶

横浜市・中区は

外国人人口16,155人、区全人口の10.8% (H29.7)



中区 区民の10.8 %が外国人。
(中国人が約56.6%)

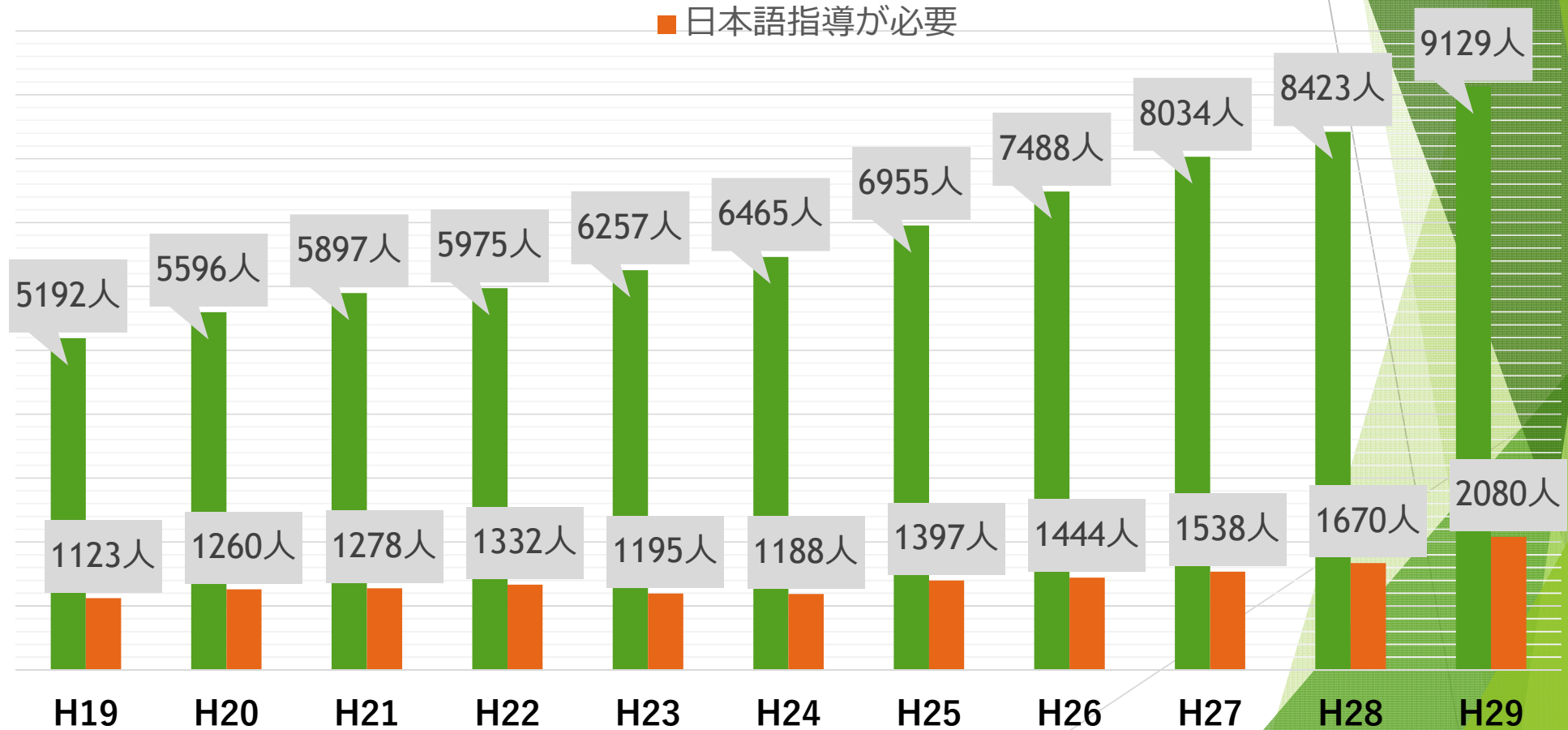
横浜市中区の直近 1 年間の人口動態

平成 2 8 年 7 月→平成 2 9 年 7 月

	H28年 7 月		H29年 7 月	増減
全人口	148.739	→	148.958	+219
外国人	15.633	→	16.155	+522
外国人 比率	10.5%	→	10.8%	

横浜市の公立学校に在籍している外国人児童生徒数の推移

■ 外国につながる
■ 日本語指導が必要



H29年度 「中区・外国人中学生学習支援教室」

主 催：なか国際交流ラウンジ

開催日時：毎週木曜日、金曜日（放課後の時間帯）

※ 長期休暇（春、夏、秋）を除く 但し夏期補講あり

活動場所：なか国際交流ラウンジ

生 徒：46名（学校推薦）（中国45名、タイ1名）

サポーター：39名

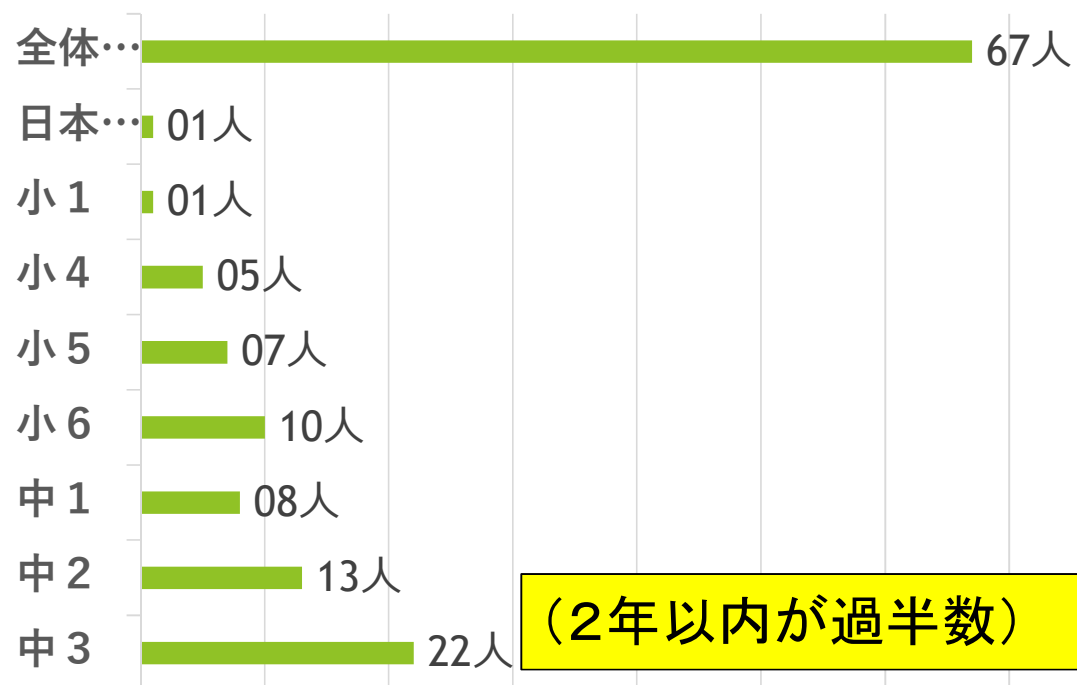
学習科目：初期日本語、国語、数学、英語他

サポート体制：原則1対1のマンツーマン指導

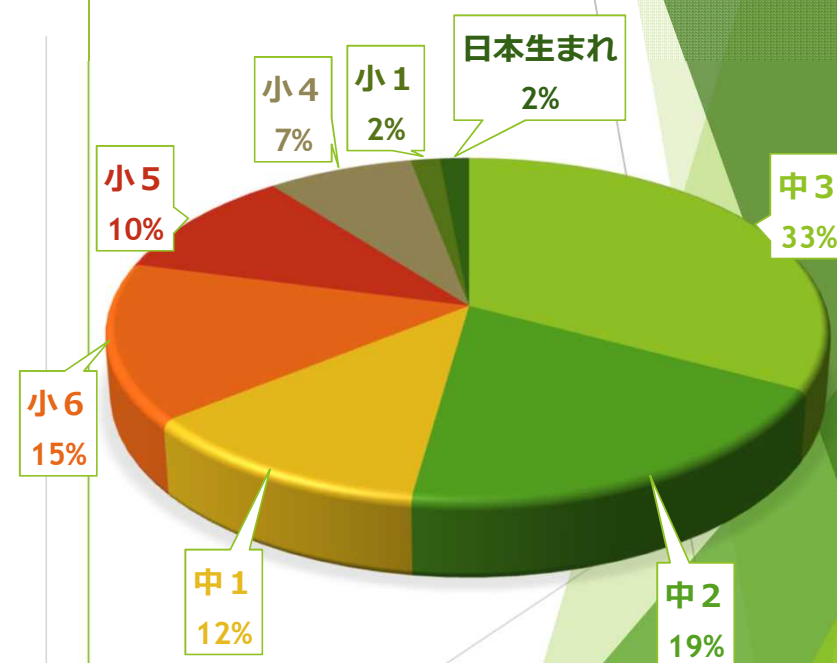


在籍している子どもたちの来日時期

子どもたちの来日時期①



来日時期②



子どもたちの課題

① 学校生活

- ▶ 日本語が分からない
- ▶ 教科の勉強が分からない
- ▶ 学校で孤立してしまう(特に散在校)
- ▶ 部活動に戸惑う

→ **自分の意志で日本に来ているわけではない（親の都合）**

② 家庭環境、経済

- ▶ 保護者は日本語がほとんどできない
- ▶ 夜間、休日はほとんど家にいないことが多い

③ 進路、将来

- ▶ 日本の学校のシステムを理解しない
- ▶ 高校受験のシステムが複雑、必要な情報が得られない。
- ▶ 将来のモデル像がみえない

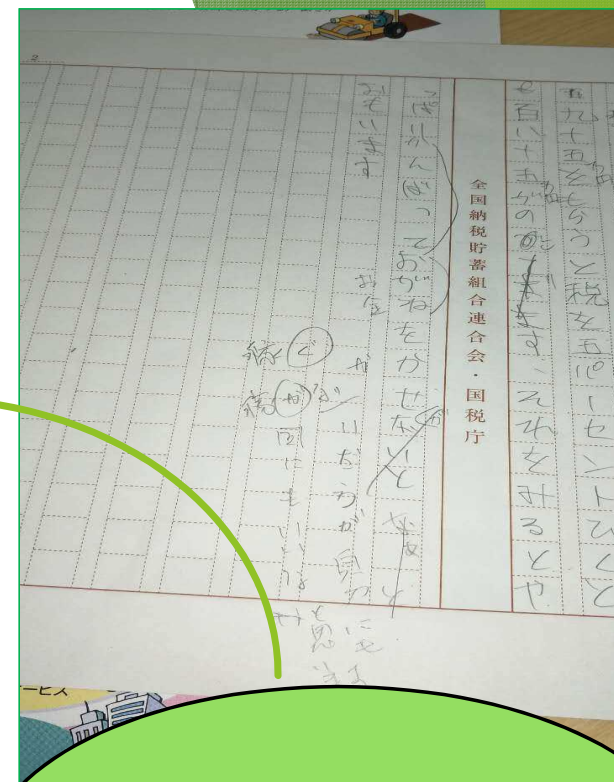
「気づきにくい」子どもたちの課題

すべてのことに
自信がない

自分の考えに自信がない
ため、発話したがない

考えを表現できない
(日本語)

正確な日本語で表現する
自信がないため、
文字を薄く、雑に書く癖



● 国語教科書の中国語翻訳の意義

中学生の年齢、心理発達段階に合った文章を日本語と中国語で読む

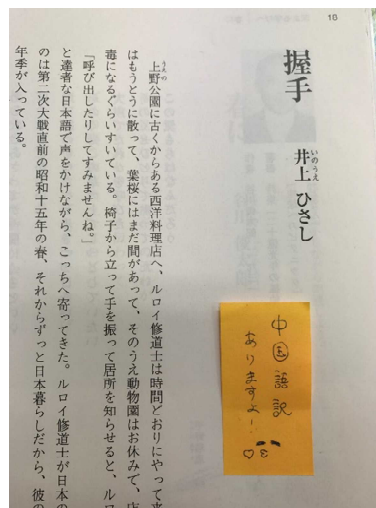
学級の勉強と同じ内容だと興味を示す



主人公の心境を読み取る、感想を伝え合う
(日本語での発話が増える)



母国語と比較しながら学習できる
母国語（アイデンティティ）に対する再確認



これは中国人生徒が国語を学ぶためのサポート教材としてなか国際交流ラウンジが作成したものです。翻

訳物ではありません。

握手 井上ひさし

握手

路罗伊修道士准时来到了上野公园附近的洋餐馆。樱花已落，叶樱还未长出，再加上上野公园休园，所以店里冷清得可怜。他看到我站起来向他招手，就一边用流利的日语说“哦，真不好意思，让你特意出来”一边走过来。路罗伊修道士踏上日本这片土地是在第二次大战之前的昭和十五年的春天，从那以后一直住在日本，所以他的日文很地道。

“我要回老家了，在加拿大的修道院本部里种田度日。为了能跟大家道别，就这样出来转转。好久不见啦啊” 路罗伊修道士伸出了他的大手。看到这大手，一下让我想起在光丘天使园的孩子们中间流传的【天使的十戒】。我初中三年级的秋天到高中毕业的三年半时间生活在孤儿院，路罗伊修道士是那儿的院长。孤儿院里有一本孩子们编的【勿忘录】。不是什么正事的东

情操教育 心が豊かに



日本社会での疑似体験ができる



自分の考えを判断する尺度ができる

なか国際交流ラウンジの学習支援教室の特徴

○区内の中学校との緊密な連携

学校の役割

- 生徒を推薦
- 学校・ラウンジ間で生徒の学習状況を共有
- サポーター研修会への協力

○外国人コーディネーターの配置

外国人コーディネーター役割

- 外国人生徒との意思疎通
- サポーターへの助言（学習面）
- 生徒の状況をサポーターと共有



外国人コーディネーターの存在意義

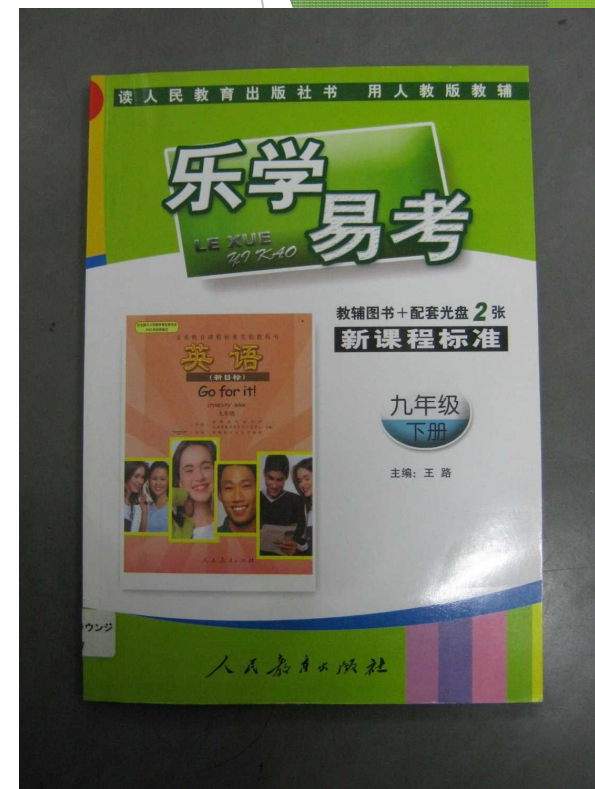
- ・ 母語で話しができる、自分たちの文化的背景を理解してくれる

- 生徒たちが安心して心を許せる。

- 生徒のホンネが聞きだせる



母語の読み物と教科書



中国語で直接指導



お別れ会の様子



夢を実現するためのチカラ

